

小学校国語科における悲劇教材の指導法に関する試論

—幼小連携を視野に入れつつ—

金 戸 清 高

1. はじめに

○Great literatureハtragicダト云フ。或人其意味を説明してfinalダカラト云フ。是ハeternalナ落着ト云フ義カモ知レヌ (HaleノDramatists of To-dayヲ見ヨ)。余思フニtragedyハ人ヲ真面目ニスル。(是ハ誰モ異議ハアルマイ) 然シソレガ何故greatニナルカ。真面目ニナツタ時始メテ人間のmoral beingガ活動スルカラデアル。人ニカラカツタリ、人ヲイヂメタリシテ不埒ヲやツテ恬然タル動物モ其人ガ惨死ヲ遂ゲルトキニ始メテ悚然トシテ本来ノ我ニ帰ルカラデアル。(明治40、41年頃「断片四七A【手帳(土)117-116縦書(横置)】」『漱石全集第19巻』1995年11月岩波書店所収)

小学校国語科、特に低学年における悲劇教材の扱いについては、児童が主題の重みをどのくらい受け入れられるか、受容者である児童のアビリティを考えながら、慎重にしなければならないと思われる。本稿は小学校国語科教育における悲劇教材の意義について学習指導要領等を参照しながら深く考察するとともに主に低学年における悲劇教材の指導法についての可能性を探るものである。

まず、「悲劇に関する議論は混乱をきわめている」¹という柄谷行人の指摘どおり、議論を隘路に入り込ませないために、ここで前提となるべき〈悲劇とは何か〉のデファインは保留しておき、以下の視点の紹介から論を展開したい。

この物語が初めて紹介されたとき、幼稚園児が最後まで引き付けられていいんとしながら話を聞いたという報告が幾つかあったことを記憶している。そのことは、小さな子供にも、物語に必然性があれば、悲劇に耐えられる精神の強さがあることを証明している。よく、悲劇に耐えられる弾力のある精神を持つ限り、その人間の心は健康だと言う。類型的なお涙頂戴式な悲劇ではなく、人間の真実に立脚した悲劇を鑑賞させることは、子供の精神を健康に保ち、逃避的、退廃的、妥協的な生活態度に墮落することを力強く防いでくれる。良質の悲劇がもっと多く要求されるゆえんである。(神宮輝男「作品に寄せて スーホの白い馬」²但し下線引用者、以下同。)

先に拙稿『『ごんぎつね』指導法の研究』³でも指摘したのだが、小学校国語科教科書に収録された文学教材の中で、所謂ハッピーエンドではない物語は、多くない。しかし、悲劇教材の扱い方について、指導書に書かれた箇所は、おそらくこれだけである。たとえば現行の学習指導要領に沿

って編纂された光村版の国語教科書では、1年下「ともだち」に「ずうっと、ずっと、大すきだよ」（ハンス＝ウイルヘルム作・絵 久山太市訳）が採り上げられている。『小学校国語学習指導書1下「ともだち」』（2005年2月）では「3 主題にかかわる指導」および「4 構成」として以下のように解説している。

子犬のときから、ぼくたちといっしょに大きくなってきた大好きなエルフ。そのエルフが、ぼくより早く大きくなって年をとって死んだ。その悲しみの中でも「エルフ、ずうっと、大すきだよ。」って言ってやったことで悲しみがやわらいだ。これからも、ほかの動物を飼っても、「ずうっと、ずっと、大すきだよ」と言ってやろう。／そう心に決める優しさが、この作品の主題となっている。（「3 主題にかかわる指導」）

この物語は、主人公「ぼく」が愛犬「エルフ」をいかに愛していたかが、回想の形をとって展開されている。〈略〉このうち、エルフが年をとっていき、やがて死んでしまうという第三の部分、この物語のクライマックスである。年をとったエルフに「ずうっと、大すきだよ。」という言葉がいつもささやく「ぼく」。主人公がエルフをいかに愛していたかが分かる。また、このことが、死という悲しみの中にも気持ちの救いとなっている。（「4 構成」）

以上の引用から窺えることは、「ずうっと、ずっと、大すきだよ」を、単なる悲劇教材としてではなく、悲しみの融和としての〈愛情の表現〉を中心としていることである。これは『3下 あおぞら』で扱われる、「教科書で最初に出会う戦時下状況の文学」⁴である「ちいちゃんのかげおくり」（あまん きみこ）も、寧ろ「平和の大切さ、命の尊さを感じ取ってほしい」⁵という意図からの採択であって、悲劇教材という意味は第一義には置かれていない。

以上から、先に引用した神宮輝男氏の悲劇教材観、すなわち「小さな子供にも、物語に必然性があれば、悲劇に耐えられる精神の強さがある」ことが、小学校国語科における悲劇教材採択の重要な意義ということになるだろう。

ところが今日、神宮氏の「悲劇に耐えられる精神の強さ」の問題は、別の意味で最重要課題となっている。いわゆる〈キレる子ども〉、「情動の科学的解明と教育界等への応用」⁶の課題である。以下詳述していく。

2. 不条理と「情動」について（その1）

（小学校学習指導要領および幼稚園教育要領の改訂事項に触れつつ）

今回の「小学校学習指導要領」および「幼稚園教育要領」改訂により、所謂幼小の接続が双方から規定された。

（9）幼稚園においては、幼稚園教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにすること。（「幼稚園教育要領」「第3章 指導計画及び教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項」「第1 指導計画の作成に当たっての留意事項」「1 一般的な留意事項」より）

(5) 幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続のため、幼児と児童の交流の機会を設けたり、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会を設けたりするなど、連携を図るようにすること。

(同「2 特に留意する事項」より)

(12) 学校がその目的を達成するため、地域や学校の実態等に応じ、家庭や地域の人々の協力を得るなど家庭や地域社会との連携を深めること。また、小学校間、幼稚園や保育所、中学校及び特別支援学校などとの間の連携や交流を図るとともに、障害のある幼児児童生徒との交流及び共同学習や高齢者などとの交流の機会を設けること。(「小学校学習指導要領」「第1章 総則」「第4 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項2」より)

(6) 低学年においては、生活科などとの関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにすること。特に第1学年においては、幼稚園教育における言葉に関する内容などとの関連を考慮すること。(「第2章 各教科」「第1節 国語」「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」より)

(4) 低学年においては、生活科などとの関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにすること。特に第1学年においては、幼稚園教育における表現に関する内容などとの関連を考慮すること。(同「第6節 音楽」「第3 指導計画の作成と内容の取扱い1」より)

(5) 低学年においては、生活科などとの関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにすること。特に第1学年においては、幼稚園教育における表現に関する内容などとの関連を考慮すること。(同「第7節 図画工作」「第3 指導計画の作成と内容の取扱い1」より)

特に教科「国語」に関しては、幼稚園での領域「言葉」とのつながりについて、従来から指摘されていた事柄ではあったが、今回「(7) 低学年においては、生活科などとの関連を図り、指導の効果を高めるようにすること」(「第3 指導計画の作成と各学年にわたる内容の取扱い」より)と、「生活科」との関連付けが指摘された旧要領からさらに展開し、幼稚園での領域「言葉」との関わりが規定された。つまり乳幼児が言葉の獲得のために有効とされる、素話のほか絵本や紙芝居、人形劇といった視聴覚教材を、保育者がどう選定するかの問題と連続しているのである。

乳幼児期がその後の人格形成においてとても重要であることは言を俟たないが、保護者や保育者によって提供された物語や童話が、こどもたちの中でどのような形で心に残っていくのか、頗る興味深い。加えて子どもたちが、その後の人格形成において心に残り続ける文学とは、どのようなものであろうか。たとえば北杜夫がトーマス・マンの「トニオ・クレーゲル」と出会い、また遠藤周作がモーリヤックの「テレーズ・デスケイルウ」と出会ったように、現代のこどもたちにも、いつの日か一生愛し続ける文学作品と出会うことを願って已まない。

3. 不条理と「情動」について(その2)

(九州ルーテル学院大学学生対象アンケート調査結果)

ある授業で、一つの教訓について説明するための挿話として、「因幡の白兔」を例にとろうとしたとき、それを知る受講生が一人もおらずに愕然とした経験がある。そのため九州ルーテル学院大学(以下「本学」と記す)の開講科目の内、筆者が担当した2005年度の「児童文学研究」(10月12日実施、1年次生対象の専門科目、以下これを便宜上「A」と呼ぶ)2008年度の「日本語文章表現法Ⅱ」(10月17日実施、同じく1年次生対象の共通教育科目、以下これを「B」と呼ぶ)の

受講生を対象に、以下のアンケートを試みた。2006年度にてカリキュラム改編により「児童文学研究」が閉講となったため、A・Bで実施授業科目が異なっている。

1. あなたが初めて話してもらった物語は何ですか（あなたの記憶で最も古い文学体験は）？
それは何歳でしたか？
2. あなたが初めて自分で読んだ本は何ですか？
それは何歳でしたか？（以上A、B共通）
3. あなたがこれまでに最も印象深く覚えている文学作品の名称を書いて下さい。
それを読んだ時は何歳でしたか？（Aのみ）
4. あなたが最近読んだ本の題名を書いて下さい。
それを読んだのは何歳でしたか？
5. あなたの文学体験や文学に関する思い出を何でも書いて下さい。（以上A、B共通）

アンケート回答の形式はAが出席調査を兼ねたため記名式とし、Bは3年後のデータを編集する意図で実施したため無記名とした。時間割の編成上、Aは人文・心理臨床の両学科生が受講（4年次生以上は人文学科のみ）Bは人文学科のみの受講となった。アンケート回答者の内訳および1～4の回答集計は以下の通りである。

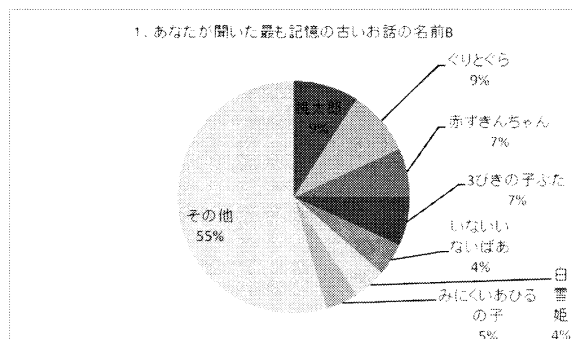
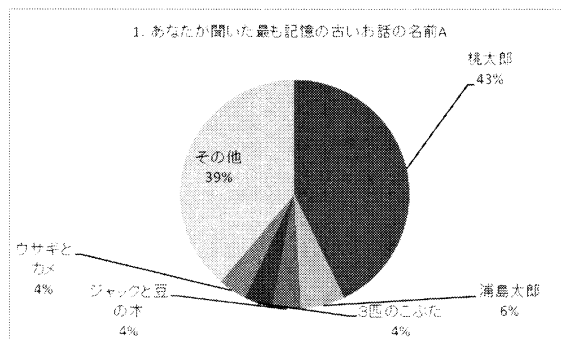
アンケートA回答者

1年人文学科	F	30
	M	14
1年心理臨床学科	F	2
	M	1
4年以上人文学科	F	0
	M	2
計		19
内	F	32
	M	17

アンケートB回答者

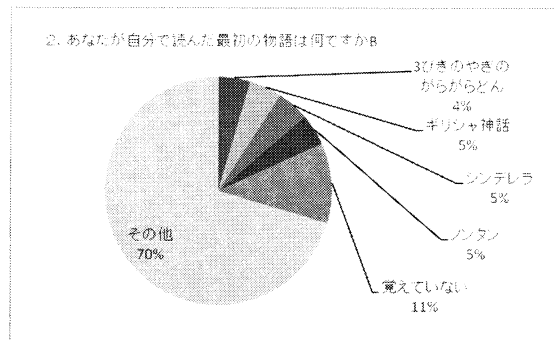
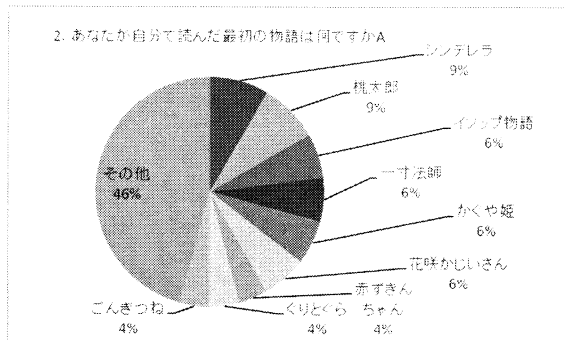
1年キャリアイングリッシュ専攻	F	16
	M	7
1年こども専攻	F	20
	M	0
2年こども専攻	F	1
	M	0
計		44
内	F	37
	M	7

質問1. あなたが初めて話してもらった物語は何ですか（あなたの記憶で最も古い文学体験は）？



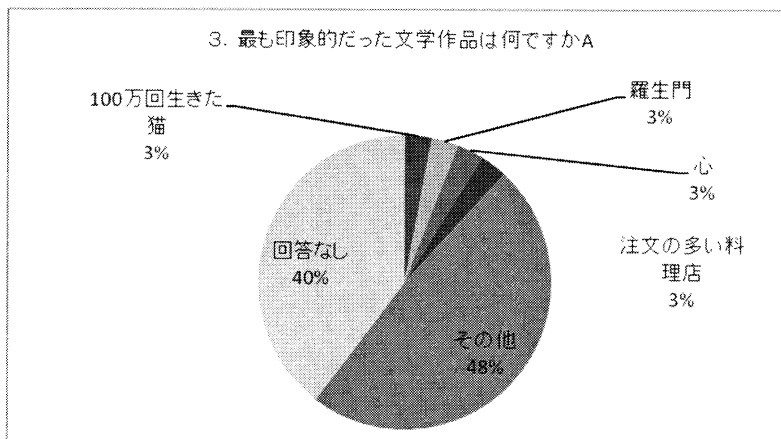
年齢はいずれも概ね1～4歳で、少数例としてAでは「桃太郎」（5歳）「浦島太郎」（同）「ジャックと豆の木」（同）、「マッチ売りの少女」（6歳）「きつねとぶどう」（同）「ごんぎつね」（7歳）、「100万回生きた猫」（8歳）があった。Bでは「桃太郎」（5歳）「ぐりとぐら」（5歳）「グリム童話」（7歳）「ガリバー旅行記」（同）などがあつた。

質問2. あなたが初めて自分で読んだ本は何ですか？



年齢はいずれも4～7歳で、例外的に「絵のない絵本」(2歳)、「イソップ物語」(3歳)、「長靴をはいた猫」(同)、「3匹のやぎのからがらどん」(同)、「ごんぎつね」(8歳)、「100万回生きたねこ」(同)、「桃太郎」(9歳)、「ナルニア国物語」(10歳)、「こまったさん」(同)、「注文の多い料理店」(12歳)などがあった。

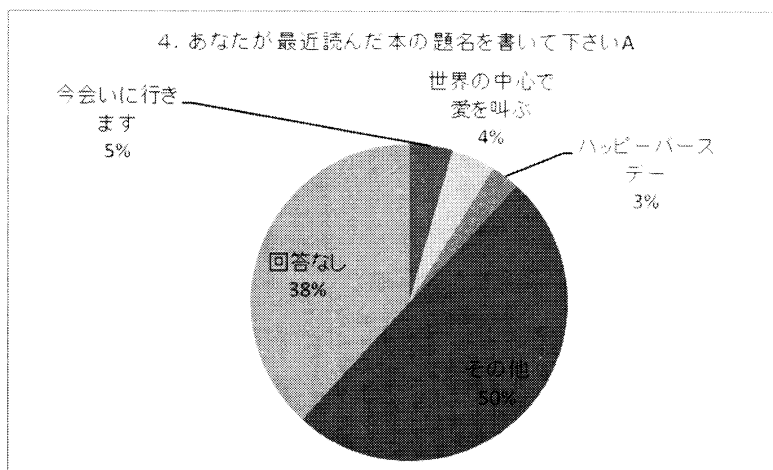
質問3. あなたがこれまでに最も印象深く覚えている文学作品の名称を書いて下さい。



年齢は14～18歳が多く、例外的に「いもうとのにゆういん」(3歳)、「ブレーメンの音楽隊」(5歳)、「きつねとぶどう」(6歳)、「ピノキオ」(同)、「ぐりとぐら」(7歳)、「100万回生きたねこ」(8歳)、「ごんぎつね」(同)、「100万回生きたねこ」(10歳)、「Itと呼ばれた子」(同)、「ハッピーバースデー」(19歳)、「きみならできる」(20歳)があった。

全体的に回答がばらついたが、「回答なし」が40% (27名) に及んだ。回答された例と考え合わせても、これは学生たちが過去に自身の実存を揺り動かすような作品と出会っていないことを示していると考えられる。ところで2回に亘る調査で「100万回生きたねこ」(佐野洋子作・絵 1977年10月講談社)を読んだ年齢の幅が広いことがわかった。「絵本ナビ」⁷⁾では対象年齢を「6～7歳から」とのみ記しているが、これについては後述する。

質問4. あなたが最近読んだ本の題名を書いて下さい。



年齢は一部に15歳以下や20歳以上も見られたが殆どが15～19歳であった。但しここでも「回答なし」が38% (26名) 見られた。1～4の項目すべてに「きつねとぶどう」(6歳)を書いた受講生も見られた。最近の学生の活字離れが如実に表れた結果となってしまった。

ところで「質問4」はBの学生にもアンケートを実施したが、受講生の半数近くに及ぶ「こども専攻」の学生が、夏期休暇中の課題となった「窓際のトットちゃん」や、後期の演習にて採り上げた絵本や紙芝居の材料となる童話等を挙げていたため、統計化しなかった。

最後に、「質問5」で書かれたものをすべて挙げておく。

基本的に本を読むのは好きなので今でも自分で買ってよく読む。小さい頃親に読んでもらった記憶がない。(A人文F)

(質問4の回答「海の匂い」19歳は) 純愛系でした。(同)

8才の時ある本の終わり方が納得いかなかったので自分で続きを書いて何かの章をもらった。(質問4に「ロミオとジュリエット」15歳、質問5に「カルメン」21歳を書いたA人文M)
シェイクスピア四大悲劇が面白かった。「平家物語」は10年ほど読み続けている。(A人文M)

「桃太郎」や「金太郎」などの本を小さい頃読んでもらうのが好きだった。(質問3に「羅生門」15歳、質問4に「雪国」18歳と書いたA人文F)

「伊豆の踊子」、「心」、「たけくらべ」、「吾輩は猫である」(質問3に「舞姫」17歳、質問4に「世界の中心で愛を叫ぶ」17歳と書いたA人文F)

「坊っちゃん」、「注文の多い料理店」(質問3に「心」17歳、質問4に「今会いに行きます」18歳と書いたA人文F)

「ジャックと豆の木」は僕が大好きな本だ。小さい時、豆の木が大きくなっている絵を見てとても楽しい気分になった。(質問1で「ジャックと豆の木」と書いたA人文M)

高校に入学してから小説を読むのにハマった。(恋愛もの)(質問3で「こんとあき」6歳と書いたA人文F)

中学・高校いずれも図書室の本をすべて読もうとして無理だった。(質問3で「空の中」16歳、質問4で「ボーイ・ミーツ・ガール」18歳と書いたA人文M)

小さい頃から絵本は大好きで、シリーズの絵本を何冊も集めていた。何度も何度も読み返し、また読んでもらっていた。「姫」が出てくる物語は特に好きで、「かぐや姫」から「人魚姫」、「シンデレラ」…と持っており、ぼろぼろになるまで読んだ。(質問2で「かぐや姫」4歳と書いたA人文F)

小さい時のことは殆ど憶えてないが、保育園の時劇をした物語は少しは記憶にある。本をいくつか持っていた。(質問3で「ピーターパン」5歳、質問4で「Itと呼ばれた子」を書いたA人文F)

壮大なスケールの物語が好きでファンタジーものを見つけては読んでいた。今でもそういった話は好きだが、昔感動した物語が最近次々と映画化され、自分だけの発見でなくなっていくのが少し淋しい。(質問2で「ナルニア」10歳、質問4で「沈黙」19歳と書いたA人文F)

父が本を読むのがとても好きで、幼い時はよくお話をしてくれた。(A人文F)

幼い時に絵本をたくさんみた気がするが、ハッキリと憶えていない。あおむしがチョウチヨになった本が面白かった。(質問1および2で「はらぺこあおむし」「100万回生きたねこ」8歳と書いたA人文F)

「ハリーポッター」で本嫌いの私が好きになれた。「蜘蛛の糸」などから人としての多くを学んだ。(質問3で「ハリーポッター」15歳と書いたA人文F)

最近絵本を何冊か読んだ。懐かしい本もたくさんあり、絵本というものは大人が読んでも面白いものと思った。(質問5で「星の王子様」18歳と書いたA人文F)

まず、月に1回幼稚園で配られた絵本からはじまり、小・中学生時代は動物記を読んでいた。高校からは文庫の小説を読み始め、今に至る。小説は想像の世界なので読みやすくて時間を忘れて夜中まで……なんてこともしばしば。(A心理臨床F)

「走れメロス」、「さよならさんかく」、「スイミー」、「手袋を買いに」(A人文M)

劇をした。(BキャリアイングリッシュF)

ない(BキャリアイングリッシュF)

小学校4年生の時になんとなしに手に取った「ジャングルブック」が面白くて何度も読み直した。文章なのに木々や動物の色づかいが頭の中ではっきりと浮かんだ。以来、よく本を読むようになった。(BキャリアイングリッシュF)

幼稚園の先生や親などからよく絵本を読んでもらっていた。(BキャリアイングリッシュF)

高校の国語の授業で習った「ひよこの眼」が同学年の生徒でとても流行ったこと？(BキャリアイングリッシュF)

学校の授業では、文学らしい文学を習っていましたが、なかなか自分で読む機会は作れなかった。文章を読むのが遅いため、本を読むのはあまり、進まなかった。中学生のときに読んだ、ロアルド・ダールさんの「マチルダは小さな大天才」というのは、1番心に残っている作品である。その作品を読んだあと、はまって、ロアルド・ダールさんの作品ばかり読んでいた。(BキャリアイングリッシュF)

幼い頃、毎晩母が本を読み聞かせてくれた。(質問5で「西の魔女が死んだ」19歳を書いたBキャリアイングリッシュF)

父から本を読むと字を覚えるときいて小学校や中学校では文庫本をそれなりに読んでいた。(質問5で「余命1年の花嫁」19歳を書いたBキャリアイングリッシュF)

小中学の時、本が好きで図書館によく行っていた記憶が多い。何を read したかは忘れたが有名な書物（若者向け）は読んでいた気がする。（質問5で「IWGP」19歳を書いたBキャリアイングリッシュM）

小学校3年の頃から、少年誌を読み始めた。中学2年の頃、友人の薦めで小説を読み始め、自ら読み始めるようになった。（質問5で「今殺りに行きます」18歳を書いたBキャリアイングリッシュM）

私が初めて買った文庫本は村上龍の「悪魔のバス 天使のゴール」だ。この小説を読んで私は、本を読むだけでなく、書いてみたいと強く思うようになった。この小説はサッカーの試合を約100ページにもわたって書かれて、その一つの表現に感動したからだ。今私は小説を書いているが、自分の頭の中で考えていることを文にするのはとても難しいと感じている。いつか完成することができればいいなと思いながら執筆活動をしている。（質問5で「限りなく透明に近いブルー」19歳を書いたBキャリアイングリッシュM）

あまり本を読まなかったです。（BキャリアイングリッシュM）

幼い頃は本を読んで一人でいた。遊んだりはしなかった。（質問5で「マンガ本」と書いたBキャリアイングリッシュM）

あまり本を読んだ記憶がありません。（質問2で「戦隊ものの絵本」5歳、質問5で「夜のピクニック」18歳と書いたBキャリアイングリッシュM）

楽しかった。物語の先がわからなかったので、最初の時は集中していた。（質問5で「パラレルワールド・ラブストーリー」18歳と書いたBキャリアイングリッシュM）

最近読み返した本のうち、「星の王子様」は小さい頃に read した時とは別に、何か感じるものがあった。（質問5で「星の王子様」18歳と書いたBこどもF）

小学生のとき、「となりのトトロ」が好きでよく本を読んでいた。「からすのパンやさん」のパンがたくさんかいてあるページが好きで、そのページばかりみていた。（BこどもF）

授業での紙芝居に使用。（質問5で「ねないこだれだ」18歳を書いたBこどもF）

夜寝る前に何かお話をしてもらわないと寝られなかった覚えがあります。（BこどもF）

最近、絵本の読み聞かせをする機会があり、古い本を引っ張り出して読みました。（BこどもF）

いつも夜、寝る前にお母さんが絵本を読んでもくれたのを覚えています。読書感想文や朗読コンクールなど、そんな機会の時は本を読んでいました。後は、小説などは好んで読んでいました。（BこどもF）

家にたくさん絵本があったので、いつでも好きなだけ読むことができました。昔 read した絵本は今でも内容をすごく覚えています。（BこどもF）

童話発表会（BこどもF）

夜寝る前に母に毎日絵本を読んでもらっていたこと。（BこどもF）

小学4年のときにハッピーバースデーという本を読んで心理士という職業に興味をもった。（BこどもF）

自分の知らない世界を知ったり、想像力が豊かになったぶん、よく物語の世界を現実世界をごっちゃにしていた。あと、絵本を暗記して一人芝居をして遊んでいた。（3～5歳の頃）（BこどもF）

小学校のとき宿題で教科書の音読がよくあってそれが嫌いだった。（BこどもF）

以上、引用が長きに亘ったが、現代の学生の読書経歴や活字に親しんでいる度合いが推し量られる資料として紹介しておく。

4. 不条理と「情動」について（その3）

（保育や児童教育の現場でのハッピーエンドでない童話や悲劇教材の扱いについて）

現代ほど〈癒し〉が求められている時代は嘗てなかったに違いない。それほど現代人の心は荒み、疲れ果てているのである。そのような中、絵本が「大人まで巻き込んでブームを巻き起こすケースも見られ」⁸る。前章にて触れた『100万回生きたねこ』がその一例であると言われる。別の見方をすれば、こういった絵本は寧ろ大人が癒されるために読む絵本となっていると言うこともできよう。

悲劇とは、一定の大きさをそなえ完結した高貴な行為、の再現（ミーメーシス）であり、快い効果をあたえる言葉を使用し、しかも作品の部分部分によってそれぞれの媒体を別々に用い、叙述によってではなく、行為する人物たちによっておこなわれ、あわれみ (eleos) とおそれ (phobos) を通じて、そのような感情の浄化 (カタルシスkatharsis) を達成するものである。ここで快い効果をあたえる言葉とは、リズムと音曲をもった言葉のことを、またそれぞれの媒体を別々に用いるというのは、作品のある部分は韻律のみによって、他の部分はこれに反し歌曲によって仕上げることを意味する。（アリストテレース『詩学』岩波文庫）

上は悲劇とカタルシスとの関係について指摘された古典的な悲劇論であるが、人はなぜ悲劇によって癒されるのかという疑念に対して、明確に答えられている文献が少ない中、次の指摘は示唆に富む。

なぜ、見ていて悲しくつらい悲劇が求められるのか。それは、自分の悲しみや苦悩が浄化（カタルシス）できるから、と言えそうです。人々の悲しみが、物語（悲劇）として描かれた。そしてそれに共感し、こころが浄化される人もいた。そうやって悲劇は語り続けられてきたのだと思います。／おそらく悲しみや苦悩が深い人ほど、カタルシスを求めているのではないのでしょうか。悲しみが共有されることで癒されるということは、きっとそれは自分だけの悲しみではないと思わせてくれるからです。／自分の悲しみを見つめ、しっかりと自覚したり吐露することで、はじめて癒し（カタルシス）に繋がるのだとしたら、無理に明るく振舞っても、根本的な解決にはならないということですね。ネガティブなものを封じ込めようとせずに、自覚したり誰かに聞いてもらうことが、時には必要なのだと思います。

(<http://www.alived.com/blue/site/catharsis.html>)

自身の読書歴を顧みると、所謂ハッピーエンドでない童話や小説、すなわち結末が腑に落ちないような物語の方が、結果的に記憶に残っていくものである。それは幼少時の文学体験であっても同じであって、それが悲劇教材の意義であると言えるかもしれない。アンデルセンやグリムが遺した童話でも、悲劇的、あるいは残酷な結末に終わるものが意外と多いことが解る。本稿冒頭に

引用した、〈優れた文学は悲劇である。悲劇は人を真面目にするからである〉という漱石の悲劇論は未だ色あせないが、これまで述べてきた悲劇観に沿って換言すれば、悲劇はその主題の不条理性によって、読者や観客を成長させる、とすることが出来るだろう。実は、こうした〈不条りに耐え抜く力〉こそが、幼児期に培われるべき「生きる力の基礎」なのではないか。

昔には考えられなかったような悪いことをして、それがなぜ悪いかわからないとか、まったく反省のない子供って、いるでしょ。ああいうのは皆、親だの、祖父母だのからお伽噺をしてもらう機会がなかったんじゃないかなあ。ぼくにはおばあちゃんがいたから、しょっちゅう布団の中へもぐりこんでいってお伽噺をねだったもんです。おばあちゃん中風で寝たきりだったから、いつでももぐりこんでいけて具合がよかったの(笑)。／ぼくの子供も、ぼくが寝ていると布団にもぐりこんできて「パパお話しして」というのが毎朝、毎晩でしたよ。こういう時は面倒でも、してやらなきゃいかんと思ってね。自分の幼時体験もあるから、昔話とか寓話とか、知っている限りの話はしてやりましたよ。子供はほら、何度でも同じ話をせがむでしょう。あれがいいんですね。もう、無意識の底にへばりついて忘れない。子供の方がよく憶えていて間違いを許さなかったり(笑)。「違うでしょ。その時兎さんは亀さんにこう言ったんでしょ」なんてね。／お伽噺も寓話も、必ずしも勸善懲惡ばかりでなくて、バランス感覚が保てるみたいな話もちゃんとあるんですね。正義の行き過ぎを批判的に語るのもあるし、人をあまり信じすぎてもよくないとかね。熊と道連れになった旅人の話がそうでしょう。ただまあ、困った友達に限って、嫌えば嫌うほどすり寄ってきたりもするけど(笑)。日本人はすぐ極端に走るから、こういうバランス感覚も大事だと思うなあ。聖書にもあるけど、自分を省みないで皆で魔女狩りみたいに人を攻撃するのはよくないよあれは。日本では皆と一緒にやらないと自分まで悪く言われるからでしょうね。／過激な寓話もありますよね。ちょっと悪いことしただけなのに、死ぬほど残酷な目にあわされたりする。殺されたりね。こういうのが無意識に残るんです。最近父親の力が弱くて、エディプス・コンプレックスが確立されないから、それくらいでちょうどいいのかもしれない(笑)。いわゆる残酷童話というの、不条理感覚を養う上でいいんでしょうね。そりゃ社会へ出りゃ不条理なこといっぱいあるもの。いちいちキレてたら間にあわない(笑)。／大人が意味を解説してやるのもいいですよ。アリとキリギリスの話だって、四季の移り変わりじゃなく、若い時と老年になってからのことだと、ちゃんと教えてやらないといけない。ぼくなんかそれで、若いときほんと真面目に働いてほとんど遊んでないもんね。損したなあ(笑)。／幼時体験は無意識的な行動にまで残りますからね。そりゃもう、どうにもならない。だから「あいつと一緒にいじめよう」なんて誘われても、やらないと自分がいじめられるんじゃないかなんて考える前に、「いやだ」という答えがぱっと出る。別にいじわる爺さんがどんなひどい目にあったか思い出したりしなくてもね。／祖父母が家庭にいなくなって、インテリ家庭になるほどお伽噺なんてしないから、そういう子供が大人になって悪いことするんじゃないの。偉いと言われている人、たとえば組織の上層部の人とかね。さし出されたその金を、これが受け取っていい金かどうか咄嗟の判断ができなかったり、これを受け取らないと仲間はずれになるとか出世できないとか考えたりね。皆がやっているとか。本来は無意識的に、たちどころに「ノー」が出なきゃいけない。大人になってからの倫理道德の教育はほとんど役に立ちませんからね。よっぽどひどい目にあわない限り。たいていは反論したり自己弁護したり、野暮

なこと言うなで笑い飛ばしたりね(笑)。／その点子供だと、無垢な子供心に浸みこんでいつまでも残ってます。たとえ友達に誘われてちょっと悪いことをしてしまっても、そのための後悔というのはほかの子より激しいから、それからは絶対に悪いことしなくなったりするもの。あっ。これも自分のことかもしれないが(笑)。／幼い子供に、お兄ちゃんやお姉ちゃんでもいいからお伽噺をしてやってほしいよなあ。テレビでも昔話やってるけど、あれほどちらかといえば芸術性の高さをめざして、子供にとっては肉親とのスキンシップがない分、ちょっと淋しいからねえ。(筒井康隆トークエッセー「少年のための残酷童話―読み聞かせが良識養うー」2000年5月7日『朝日新聞』)

これも引用が長きに亘ったが、所謂不条理性が人間を豊かに育てる一例として、筒井氏の指摘は示唆的である。1980年11月29日、神奈川県川崎市にある東急田園都市線宮前平駅周辺のベッドタウンに住む20歳の予備校生の男が、両親を金属バットで殴り殺すという、所謂「神奈川金属バット両親殺害事件」以来、〈キレる〉子の問題が顕在化した。近年はこれを「情動」(「怒り・喜び・悲しみ・憎しみなどのような一時的な感情の動きで表情、身振りなどの行動の変化や心拍数増加や血圧上昇などの自律神経系や内分泌系の変化を伴う」⁹⁾)というタームが用いられる。特に青少年期における〈不条理に耐え抜く力〉の育成が、幼少期からの悲劇的童話の受容によってなし得るとすれば、悲劇教材の意義は更に重要なものとなり得よう。

注

- 1 柄谷行人「マクベス論」(『意味という病』1979年10月河出書房新社 所収)。
- 2 『小学校国語学習指導書 2下 赤とんぼ』(1992年月光村図書) 所収。ちなみに当該年度における月光村図書版の「スーホの白い馬」は2年生下の最後となる単元七「紙人形げきをしよう」で扱われることになっているが、現行「学習指導要領」(1998年告示、2002年施行分)では単元六「お話を楽しもう」で採り上げられている。神宮氏の「作品に寄せて」は新版(2005年2月発行)の指導書にも掲載されている。
- 3 紀要『V I S I O』第36号(2007年7月九州ルーテル学院大学)に掲載。
- 4 『小学校国語学習指導書 3下 あおぞら』(2005年2月光村図書)
- 5 「3 主題について」(「4」と同)
- 6 「キレる子ども、科学的解明へ 文科省が検討会」(2005.01.12)にて「突然キレて暴力をふるうなど、感情をコントロールできない子どもが増えていることを受け、文部科学省は、子どもの情動を科学的に分析する検討会(座長・有馬朗人元東大長)を作り、十一日初会合を開いた。／一時的に怒りなどを引き起こす心の動き「情動」を解き明かし、学校現場に還元するのが狙い。／検討会は児童精神医学や脳科学、心理学などの専門家で構成。現時点で何がどこまで分かっているのか、各分野の研究成果を報告し合い、分野を超えた連携を目指す。／初会合では「情動は心が起こす現象と考えられてきたが、脳と関係していることが科学的に分かってきた」「幼少期に虐待を受けた子どもは強い攻撃性を示すことが多い」などの意見があった」(「熊本日日新聞 記事情報/G-Search」より)
- 7 <http://www.ehonnavi.net/ehon00.asp?no=94>
- 8 「絵本」『フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』』
(<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%B5%B5%E6%9C%AC>)
- 9 情動の科学的解明と教育等への応用に関する検討会による「報告書」(2005年10月)